

## 紹介

## 中国における現代中国語書面語文法の研究動向

長谷川 賢

## 目次

1. はじめに
2. 現代中国語書面語文法研究の流れ
3. 冯胜利 2003
4. 孙德金 2012
5. 日本における今後の研究課題

## 1. はじめに

中国語の文法研究において、従来「書面語と口語は一つの文法を共有している、書面語は口語の変種に過ぎないという考え方」<sup>1)</sup>が支配的であった(冯胜利 2018:14)。しかし、中国では冯胜利 2003 により書面語には、文言とも口語とも異なる独立した文法体系があることが指摘され、それ以降、多くの研究を通じて、書面語文法の独立性が実証されてきている。一方、日本では、この観点における書面語研究がほとんど見られない<sup>2)</sup>。また、三潞 2015:73 が指摘するように、口語と書面語の文法上の相違を区別して体系的に説明している文法書や教科書は見当たらない。この状況に鑑みて、本稿では、中国における“現代汉语书面语”(現代中国語書面語。以下、必要に応じて「書面語」と略記する)の動向を概観し、今後の日本における当該研究の課題を提示したい<sup>3)</sup>。

## 2. 現代中国語書面語文法研究の流れ

現代中国語書面語は、五四運動の産物であるとされる(冯胜利 2018:148)。周知の通り、当時中国の知識人が用いていた書面語は「文言文」であったが、1917年からの白話運動によって、書面語における白話文の使用が普及し、その後現在までの約100年間に白話文とはまた異なる「現代中国語書面語」が形成されてきた。この間、書面語の文法研究については、まず1940年代から、“欧化”(西洋化、本稿では「欧化」と表記する)の観点からの研究がなされた。欧化に関する研究は、王力 1943, 1944, 1958 から始まるとされる。王力 1943:334 では、「最近二、三十年の間に、中国は西洋文化の影響を大きく受け、語法にも多くの変化があった。その種の西洋語法の影響を受

けて生まれた中国の新しい語法を欧化の語法と呼ぶ<sup>4)</sup>とし、欧化語法はしばしば文章に現れ、口語にはあまり現れないとしている。王力 1943, 1944, 1958 は本来の中国語と欧化語法を比較し、語彙、文法における欧化現象の事例を数多く示した。その後、欧化に関して、中国では系統的な研究がない時期が続いたが、近年になり賀阳 2008, 崔山佳 2013 などの研究成果が発表されている。「欧化語法」の研究史については関 2016 で詳細にまとめられているので参照されたい。

次に、1980年代からは口語文法と書面語文法を分けて研究を行う重要性が論じられ始める。朱德熙 1985 では、教学や研究の面で書面語文法と口語文法を分けるべきであることが述べられ、書面語にのみ現れる“进行”(行う)、“加以”(加える)、“给以”(与える)などの動詞の機能について詳細に考察している。また、朱德熙 1987 では、例えば存現文において、書面語では次のような場所を表す語句の前に介詞“在”が置かれる例が見られるが、口語ではそのように言わないとし、“在”が置かれるのは新しい構文であり、翻訳文から広がった可能性があると推測している(朱德熙 1987: 325-328)。

(1) 在岸边的槐树下睡着一头大花狗。(朱德熙 1987: 325)

[岸辺のエンジュの下で大きなぶち犬が寝ている。]

このような事象を踏まえ、朱德熙 1987: 328 では、「現在口語を専門に研究する文法著作は多くないが、書面語を専門に研究する書は更に極めて少ない。現代中国語の文法研究を更に深く掘り下げるためには、口語文法と書面語文法を分けて緻密な研究をするべきであろう<sup>5)</sup>」と述べている。

胡明扬 1993 では、現代中国語文法研究にもたらされている最大の困難は、口語と書面語の相違、特に口語と欧化語法の影響を受けた書面語との間の大きな相違であるとし、多くの研究者が口語と書面語の間の相違を十分に意識していないことが現代中国語文法研究に深刻な影響を与えていると指摘している(胡明扬 1993: 2)。口語と書面語の相違の例として、例えば、形容詞は、口語では圧倒的多数において“谓语”(述語)として用いられるが、書面語では、多く“定语”(連体修飾語)として用いられること。また、口語では多くが重ね型にできるが、“伟大”(偉大である)、“庄严”(厳粛である)、“薄弱”(薄弱である)など書面語の色合いが強い形容詞は重ね型にできないことなどを挙げている(胡明扬 1993: 2-3)。胡明扬 1993: 2 では、多くの人が「口語と書面語には多少相違はあるけれども、文法面の相違はわずかであり、少なくとも一般的な結論には影響しない<sup>6)</sup>」と考えているが、実際の状況はそうではないと述べている(胡明扬 1993: 2)。

以上の三つの論文では、口語文法と書面語文法を分ける重要性が示されたが、陶红印 1999 では、「口語と書面語の区別は必要なプロセスではあるが大雑把である<sup>7)</sup>」と述べ(陶红印 1999: 18)、口語或いは書面語の内部において、さらに細かい“語体”(discourse types, 本稿では「語体」と表記する)の分類の必要性を論じている<sup>8)</sup>。例えば、“把”構文と“将”構文について、一般的に“把”構文は使用範囲が広く、使用頻度も高いとされるのに対し、“将”構文は書面語のみに現れるとされる。しかし、陶红印 1999: 21 の調査によると、『人民日報』社説では、“将”構文の出現数が“把”構文と比べ非常に少ないのに対し、料理のレシピにおいては、“将”構文の方が“把”構文より多く現れるという結果が示されている。陶红印 1999: 23-24 は、文法研究は具体的な「語体」を中心としなければならない。「語体」を中心とした文法記述は、今後の言語研究の最も基本的な出発点であると結論付けている。

20世紀に入ると、馮勝利 2003 において、現代中国語書面語は、文言とも口語とも異なる独立した文法体系を有することが論じられた。馮勝利 2003 はその後の書面語文法研究に多大な影響を与えている論文であり、次節で詳述する。さらに、馮勝利 2006 では、書面語で用いられる“嵌偶单音词”を約250種、“合偶双音词”を約400種、“书面语句型”を約300種収集し、それぞれについて文法的な特徴や例文を記述した。それを通じて、書面語と口語二つの独立性を具体例から実証した（馮勝利 2018：10）。“嵌偶单音词”とは、例えば、“我校老师”（私の学校の先生）は文法に合致するが、“\*我们学校老师”（私たちの学校の先生）は非文となる。この“校”のような二音節モデルに“嵌入”（埋め込む）ことで用いることができる単音節語を指す。“合偶双音词”とは、例えば“禁止说话”（話をするのを禁じる）は文法に合致するが、“\*禁止说”（話すのを禁じる）は非文となる。この“禁止”のような二音節語と組み合わせることで用いることができる二音節語を指す。“书面语句型”とは、例えば“为…而…”（…のために…する），“A 而 A”（A がかつ A/A であるが A）など古代から受け継がれ、書面語正式語体の中でのみ用いられる形式を指す。“嵌偶单音词”は [単+単]（単音節+単音節），“合偶双音词”は [双+双]（二音節+二音節）の形式であり、[単+単] や [双+双] は“韻律”（prosody, 韻律）の問題である。書面語文法の主要な特徴は「韻律」と「文法」の相互作用、即ち「韻律語法」であると述べている（馮勝利 2006：6-7）。

韻律については、その後数多くの研究が蓄積されている。単行本として出版されたまとまった研究成果としては、例えば周初 2011, 黃梅 2012, 柯航 2012 などが見られる。近年では、北京語言大学出版社から《汉语韵律语法丛书》（『漢語韻律語法叢書』）も出版されている<sup>9)</sup>。

韻律以外を主なテーマとした書面語文法研究としては、孫徳金 2012, 王永娜 2016 などが見られる。

孫徳金 2012 は現代中国語書面語における文言の成分について、用法の記述や定量分析を行った。また、現代の書面語においてなぜそれらの成分が用いられるのか、それらが文法体系の中で如何なる位置を占めるのか、如何なる機能を有するのかについても考察を行っている。孫徳金 2012 については第4節で詳説する。

王永娜 2016 は馮勝利 2010 などの語体語法理論を基礎として、多くの書面語の実例に基づき、“泛时空化”（本稿では「汎時空化」と表記する）が書面語正式体の重要な特徴であることを実証し、文法形式、時空的特徴、書面語体機能の間の対応関係を考察した。「汎時空化」とは、「具体的な事物や事件或いは動作における時間や空間を弱める、或いは取り去る文法マーキング<sup>10)</sup>」であるとされる（馮勝利 2010：407）。馮勝利 2010：407 によると、例えば、“国”（国）から“国家”（国家）という口語から正式体への変化について、韻律の観点からは単音節から二音節への変化であるが、意味的には具体から抽象への変化であるといえる。このような変化を「汎時空化」と称している。馮勝利氏の語体語法理論では、書面語正式体の文法の基本的な特徴は「汎時空化」とされる（王永娜 2016：25）。王永娜 2016 では、書面語正式体における各種表現形式が「汎時空化」を実現するメカニズムについて考察した。例えば、“和”並列構造について、口語では名詞性成分が並列されるが、書面語では動詞性成分が並列される例が見られる。それらの例における動詞は必ず二音節動詞であることが求められる。二音節動詞は名詞的性質を兼ね備え、次の例のように、具体的な叙述性が弱まり、表現内容の具体性や個性性が弱まり、「汎時空化」の特徴が現れるということである（王永娜 2016：40）。

- (2a) 方程解法技巧很多, 需要在学习中经常练习才可能掌握和发挥。(王永娜 2016: 39)  
 [方程式の解法はテクニックが大変多く, 学習の中で常に練習が必要で, それによりようやく習得, 活用ができる。]
- (2b) 方程解法技巧很多, 需要在学习中经常练习才可能掌握住它, 在以后使用中才能把它发挥出来。(王永娜 2016: 39)  
 [方程式の解法はテクニックが大変多く, 学習の中で常に練習が必要で, それによりようやく習得でき, その後使用する中で, 活用することができる。]

(2b)では, 二つの動作の時間関係が表現されているが, “和” 並列構造が用いられた(2a)ではそれが消去され, 動作の時間的な具体性が弱まっている。

以上のように, 現代中国語書面語文法の研究については, 1980年代から口語文法と書面語文法を分ける重要性が論じられ, 冯胜利 2003 によって書面語文法に独立した体系が存在することが論じられた後, 書面語の多くの言語事実に基づき, 書面語に独立した文法体系が存在することが実証されてきている。

### 3. 冯胜利 2003

前節で述べたように, 冯胜利 2003 は現代中国語書面語に独立した文法体系が存在することを論じ, その後の書面語研究に大きな影響を与えている。本節では, 冯胜利 2003 の概要を示し, 書面語の独立性が如何なる点で見られるのか, なぜ独立した文法体系があると主張できるのかを提示したい。

冯胜利 2003 はまず, 次のような例を挙げ, 書面語には口語とは異なる特有の語彙体系があることを示している。

- (3) 动词口语: 去、带(枪)、喝(茶)……  
 书面: 往、携(枪)、饮(茶)……  
 连词口语: 跟、而且、还有……  
 书面: 与、且、以及…… (冯胜利 2003: 53-54 例の一部を抜粋)  
 [動詞: 行く, (銃を)持つ, (茶を)飲む……。  
 接続詞: …と, かつ, それから(及び)……]

次に, 口語と書面語では, 語彙が異なるだけでなく, 異なる表現形式も用いられることを示している。

- (4) 口语: 就是…也…、把+NP、要是…就、在…方面很(有) A/V  
 书面: 即使…也…、将+NP、倘若…就、A/V 于(适/敢/用/忙/便……) (冯胜利 2003: 54)  
 [たとえ…でも…, …を, もし…なら, …においてとても A/V。]

例えば(4)の“就是…也…”と“即使…也…”は, 単純な語彙の交換といえるが, “在…方面很(有) A/V”と“A/V 于…”は構造自体が変わっている。

さらに, 書面語には次のような口語に見られない文法構造も見られる。

- (5) A/V 而 A/V、为 NP 所 V…… (冯胜利 2003: 54 例の一部を抜粋)

[…でかつ…（…であるが…），…に…される]

現代口語では二つの VP を結ぶ接続詞“而”は消滅しているが、書面語では、次の例のように“而”を用いて二つの形容詞を接続することができる。

(6) 该方法的产品制造，不仅少而慢，而且质量低劣。(冯胜利 2003: 54)

[その方法の製品の製造は、少なくかつ遅いだけでなく、その上質が悪い。]

この種の表現は、現代中国語ではあるが口語ではない。そうであれば、口語から独立した現代書面語文法であるといえる。

以上のような口語にはない文法現象以外に、書面語が独自に有する韻律制限もその文法体系の系統性を説明できる。

(7) 进行+[VV]: 进行批\* (判)

加以+[VV]: 加以批\* (判)

遭到+[VV]: 遭到批\* (判)

举行+[NN]: 举行会\* (议)

侵入+[NN]: 侵入\* (学)校/\* (他)国

滥用+[NN]: 滥用\* (职)权 (冯胜利 2003: 55 例の一部を抜粋)

[…を行う: 批判を行う]

…を加える: 批判を加える

…に遭う: 批判に遭う

…を行う: 会議を行う

…に侵入する: 学校に侵入する/他国に侵入する

…を濫用する: 職権を濫用する]

(7)の\* ( )は必須の成分であることを表す。これらの語彙は口語ではなく、書面語において生まれた語彙であり、後の成分が必ず二音節の形式でなければならない。この種の制限は個別に見られる現象ではなく、一種の系統的な要求となっている。

(8) 面临+倒閉

无法+工作

集中+力量

导致+疾病

严厉+惩罚

极为+不满

…… (冯胜利 2003: 55 例の一部を抜粋)

[直面する+倒産する

…するすべがない+仕事する

集中する+力

引き起こす+病

厳しい+処罰する

極めて+不満に思う

……]



これらの例は、前の語彙の文法的性質、及び後ろの語彙の文法的性質がそれぞれすべての例で同じというわけではなく、<sup>11)</sup> 共通することは「前の二音節成分が、後の成分が必ず二音節であることを求める」という法則があるのみである。これらの語は全て書面語であり、したがってこの種の法則は書面語の独立した文法体系であるとみなすことができる。

以上に示したのは [2+2] (二音節+二音節) の韻律制限であるが、書面語の韻律文法体系は [2+2] にとどまらない。現代書面語には文言が用いられるが、文言の語彙の多くが単音節であり、それらは他の語と組み合わせることで、現代の書面語で用いることができるようになる。

(9) 口語：来参观旅游的人不应该去/应该去。

書面：观光游客\*不宜往/\*宜前往/不宜前往。(冯胜利 2003: 57)

[口語：見学旅行に来た人は行くべきではない/行くべきである。]

書面語：観光客は行くべきではない/行くべきだ/行くべきではない。]

“宜”は“应该”(…すべきである)，“往”は“去”(行く)であるが，“\*不宜往”や“\*宜前往”は非文法的である。“宜”は古語であり、ここでは“不”を加えて二音節になることで文法的になる。“往”も同様に古語であり、ここでは“前”を加えて二音節になることで文法的になる。

次の例では、肯定文は非文法的であるが、否定文は文法的である。

(10) \*四环以外准鸣笛。

四环以内不准鸣笛。(冯胜利 2003: 57)

[第四環状道路から外側はクラクションを鳴らすのを許可する。]

第四環状道路から内側はクラクションを鳴らすのを許可しない。]

“准鸣笛”(クラクションを鳴らすのを許可する)という肯定形式は非文法的であるが、“不准鸣笛”(クラクションを鳴らすのを許可しない)という否定形式は文法的である。この種の奇妙な事象は「古語は二音節にすることで独立する」という韻律規則によって理解することができる。

現代中国語書面語の独立性は、それが存在する必要性、すなわち“拉开书面与口语距离”(書面語と口語の距離を開く)ことが必要であるとともに、“避免于文言同流”(文言との同流を避ける)必要があるということからも見て取ることができる。もし語彙が書面語と口語の距離を開くなら、韻律はその距離を「現代」の範囲内に抑え、文言に流れないようにする。韻律は最終的に書面語を文言から独立させる。したがって、書面語の文法は韻律文法を基礎として確立された文法体系であると結論付けている(冯胜利 2003: 60-61)。

最後に、冯胜利 2003: 60-62 では書面語の教学についても言及している。書面語の多くの文法的特徴は韻律の枠組みの中で運用される。韻律を離れると文章が読みづらく非文法的となったり、スタイルが食い違いどっちつかずになったりする。教学において、韻律をどのように教えるかは長期的に研究が必要な課題であるが、いずれにせよ学生に韻律語を構成する能力を育成することは必要不可欠である。上級レベルを教える中国語教師は韻律語を構成する技能を必ず備えなければならない、などと述べている(冯胜利 2003: 61-62)。

## 4. 孙德金 2012

第2節で述べたように、孙德金 2012 は現代中国語書面語における文言の成分について考察を行った。冯胜利 2018：11 は、孙德金 2012 について、「大量の事実から中国語書面語の中の文言成分が文言文とは異なるという重要な事実を説明し、書面語が独立した体系として存在する真实性と現実性を旗幟鮮明に示し実証した<sup>12)</sup>」と高く評価している。

孙德金 2012：71-72 では、現代中国語書面語には異なる性質の成分が“融合”（融合する）しているが、融合しているか否かをどのように確定するのかが重要な問題となるとし、“系統融合度”（系統融合度、以下「融合度」と略記）という概念を提起している。この「融合度」については、三瀧 2015：77-78 において詳しく解説されているが、以下改めて示す。

(11) “高融合度”（高融合度）：A 系統のある文法成分（構造）が B 系統において代わりがない、すなわち B 系統において対応する形式がない。

“中融合度”（中融合度）：A 系統のある文法成分（構造）が B 系統において基本的に対応する形式があるが、様々な要素の影響を受け、両者の間には相補関係がある。

“低融合度”（低融合度）：A 系統のある文法成分（構造）が B 系統において偶然現れている、或いは B 系統において更に優勢な対応形式がある。（孙德金 2012：72）

このように、孙德金 2012 では、「融合度」を三つに分け、この基準に基づいて、各文言成分が現代中国語であるか否かを判断し、現代中国語として認定した各文言成分について考察を行っている。冯胜利 2018：12 は、この「融合度」について、「如何なる要素が融合を決定するかについては、今後研究に値する問題である<sup>13)</sup>」と評している。

以下、孙德金 2012 による文言成分の考察の例として、“VA 为 B”の考察を概観する。

現代中国語において、次の(12a)のような文は非文とみなされ、この種の文は(12b)のように“把”構文を用いなければならないとされる。

(12a) \*他们想改变中国成(为)殖民地。

(12b) 他们想把中国变成(为)殖民地。（孙德金 2012：201）

[彼らは中国を植民地に変えたい。]

しかしながら、現代中国語書面語には、次の(13)のように“VA 为 B”の文が一定量存在する。

(13) 不克服这个倾向，……，就不能变片面抗战为全面抗战。（孙德金 2012：201）

[この傾向を克服しなければ，……，一面的抗戦を全面的抗戦に変えることができない。]

(13)のような文は非文法的とみなすことはできない。上記の「融合度」の基準に基づけば、この種の文は現代中国語の文であると認定するべきである。<sup>14)</sup>

“VA 为 B”の文法的意味は、「動作行為を行う者がある動作行為を A に行い、A を B にする<sup>15)</sup>」である。この意味を表す表現は、現代中国語には“把”（“将”）構文があり、次のように“S+把(将)+A+V 为(成, 作)+B”という構造で表される。

(14) 你把这句话译成英语。（孙德金 2012：203）

[あなたはこの言葉を英語に訳してください。]

“把” (“将”) 構文と “VA 为 B” の相違は、前者は介詞 “把” (“将”) で動作行為の対象が動詞の前に置かれる一方で、後者は動作行為の対象が動詞と “为” の間に置かれることである。この両者には明確な変換関係がある。<sup>16)</sup>

“VA 为 B” の文は、上記の文法的意味の中で、動詞の違いにより、大きく二つの意味に分けることができる。

(15) 我国历史上曾叫普通话为“国语”。(孙德金 2012: 203)

[我が国は歴史上かつて普通話を「国語」と称した。]

(16) 他们竟然改原书名为《108个男人和3个女人的故事》。(孙德金 2012: 204)

[彼らは思いがけないことに元の書名を『108人の男と3人の女の物語』に変えた。]

(15)は動作行為の主体がある人や事物の名称、性質、身分などに対して主観的に認定するという意味で、“为” の後の成分 B は認定の結果である。A と B には同一の関係があり、“为” は“是”(…である)の意味である。この「認定」を表すタイプの文に入る動詞は、“称, 认, 叫, 定, 录取, 指定”(称する, 認める, 呼ぶ, 定める, 採用する, 指定する)などである。一方、(16)は動作行為の主体がある対象に影響を加えて、それをほかの形に変えるという意味で、A と B には同一の関係がなく、“为” は“成为”(…になる)の意味である。この「変化」を表すタイプの文に入る動詞は、“变, 改, 融, 变更, 换, 合并”(変える, 改める, 融合する, 変更する, 替える, 合わせる)などである。

“VA 为 B” の動詞の特徴としては、単音節動詞がより入りやすく、文言の性質を持つ動詞が現代中国語の動詞より優勢である。動詞の基本的な意味特徴は [+動作主] [+受動者] [+結果] であり、必ず三項動詞でなければならない。

中国語で動作の結果を表す動詞には限りがあり、“成, 为, 作, 成为”(…になる, …とする, …とする, …になる)の四つのみであるが、当該構造については、“作” が「認定」タイプの動詞とまれに組み合わせられる以外に、一般的には“为” が用いられる。当該構造を“VA 为 B” と記しているのはそのためである。“为” の機能は動作の結果を表すのみであり、意味が一定程度虚化し、V が“称, 叫”等「認定」タイプの動詞の場合、次のように“为” を省略する形がある。

(17) 称他父亲/叫她姐姐 (孙德金 2012: 208)

[彼を父親と呼ぶ/彼女を姉と呼ぶ]

当該構造の V の後には、いかなるアスペクトマーカも加えることができないが、当該構造が動態的な意味を表すことができないというわけではない。当該構造は“为 B” の部分が動作の結果を表し、構造自体に結果の意味を含む。当該構造は、(18)のような已然、あるいは(19)のような未然の事態を表し、コーパスにおいて、進行相や経験相の例は今のところ見当たらない。

(18) 他说是已译《论语》为白话。(孙德金 2012: 208)

[彼が言うにはすでに『論語』を白話に訳したということである。]

(19) 把握得好, 就能化不利为有利。(孙德金 2012: 209)

[よく把握すれば、不利を有利に変えることができる。]

当該構造の A と B の位置には、形態素、語、フレーズを置くことができる。機能的には一般に体詞性成分が置かれるが、述詞性成分が置かれることもある。述詞性成分が置かれるのは、



“变 A 为 B”（A を B に変える），“化 A 为 B”（A を B に変える）の二つの形式に限られる。例えば“变不利为有利”（不利を有利に変える），“化被动为主动”（受動的なものを能動的なものに変える）などである。この二つの形式は類推可能性が高く、定型表現と見なす者もいる。また A には、次のように、定（definite）のものが置かれ、不定（indefinite）のものは置かれない。

(20a) 译《论语》为白话（孙德金 2012：209）

[[『論語』を白話に訳す]

(20b) \*译一本书为白话（孙德金 2012：209）

[一冊の本を白話に訳す]

また A と B の意味的な関係は、次の(21a)のような「同一関係」か(21b)のような「対立関係」に分けられる。

(21a) 称他为活雷锋（孙德金 2012：210）

[彼を生ける雷鋒と呼ぶ]

(21b) 化被动为主动（孙德金 2012：210）

[受動的なものを能動的なものに変える]

(21a) では A と B が同一（“他”=“活雷鋒”）であり、(21b) では A と B が対立（“被动”⇔“主动”）の関係にある。なお上掲(20a)は、『論語』が[+文言]の意味特徴を有するため、A と B が対立関係を表すと解釈できる。

“VA 为 B”の構造の分析については、「認定」タイプについて二つの意見がある。一つ目は、最も一般的な意見で、兼語式とするものである。すなわち、A は V の目的語であると同時に動詞“为”の主語であるという分析である。もう一つは「主語+V1+目的語+補語（V2……）」という分析である。これらの意見に対し、孙德金 2012：212 は、“VA 为 B”は構造及び意味の点で典型的な兼語式と異なるとし、以下の点に基づき、当該構造を「V+A（目的語）+“为 B”（結果補語）」と分析している。

第一に、“VA 为 B”は一般に“把”構文に変換できるが、典型的な兼語式はそれができない。

(22a) 大家称他为“活雷鋒”。→ 大家把他称为“活雷鋒”。（孙德金 2012：212）

[皆は彼を「生ける雷鋒」と呼ぶ。]

(22b) 大家让他回来汇报。→ \*大家把他让回来汇报。（孙德金 2012：212）

[皆は彼に帰って報告させる。]

第二に、“VA 为 B”の“为 B”は V の直接的な結果であるが、典型的な兼語式の V2 の一部は V1 の直接的な結果と見なすことができない。

“VA 为 B”は、以下の三つの点に基づくと、文言から継承された構造であると判断できる。第一に、古くからある構造であること。第二に、V に文言の形式が用いられる傾向にあること。例えば、“视”（見なす），“变”，“化”（変える）などは現代中国語では受動者目的語を取ることができないが、当該構造の中ではそのような古代の用法が残されている。第三に、現代中国語において、当該構造は生産性があることである。

最初に述べたように、“VA 为 B”と“把（将）AV 为 B”には変換関係があり、同じ意味を表す。

(23) “詹姆斯革命”将语言与心智关联起来，视语言为一个独特的心智器官。

（孙德金 2012：214）

〔「チョムスキー革命」は言語と心理を結び付け、言語を一つの独特な心理器官と見なし  
ている。〕

(23)のように同じ文の中で二つの形式が併用されていることは、作者が意識的或いは無意識的に構造の選択を行っていることを表している。このことは、表現形式をどのように選択するのかという問題が存在することを示している。

次の例は表現形式を変換できる。

(24a) 現在也就称共同语为普通话了。(孙德金 2012: 214)

(24b) 现在也就把共同语称为普通话了。(孙德金 2012: 214)

〔現在は共通語を普通話とも称するようになった。〕

この二つの構造は、基本的な意味は同じであるが、「語体」が異なる。どちらも書面語に用いることができるが、“把(将) AV 为 B”は口語にも用いられることができるため、“VA 为 B”の方が書面語の色合いがより強い。

二つの形式の選択は自由選択と制限選択の二種類がある。自由選択は語体の色合いに違いがあるものの、自由に変換できるということ。制限選択は特定の状況では一つの形式しか選択できないということである。特定の状況とは以下が挙げられる。

第一に、A が長い場合や構造が複雑な場合は“把(将) AV 为 B”が用いられる傾向にある。

(25) 现在日本帝国主义要把整个中国从几个帝国主义国家都有份的半殖民地状态改变为日本独占的殖民地状态。(孙德金 2012: 215)

〔現在日本帝国主義は、中国全体を、いくつかの帝国主義国家が分割している半植民地状態から日本が独占する植民地状態に変えようとしている。〕

(26) 日本帝国主义决定要变全中国为它的殖民地。(孙德金 2012: 215)

〔日本帝国主義は全中国をその植民地にしようとして決定した。〕

(25)(26)は共に同じ文章の例であり、基本的に同じ内容の事柄が異なる構造を用いて表現されている。(25)のAは複雑で長すぎるため、“把”構文が用いられていると推測される。

第二に、次の(27)のように、AとBが一文字の形態素の場合は、“VA 为 B”しか用いることができない。

(27) 变废为宝 → \*把废变为宝 (孙德金 2012: 215)

〔ごみを宝物に変える〕

第三に、前文で“把(将) AV 为 B”が用いられた場合、その構造の影響を受け、“把(将) AV 为 B”が用いられる傾向がある。

(28) 韩礼德不同意把文体只作为一种表达，而与概念意义，或称认知意义对立起来，把文体视为没有意义的特征。(孙德金 2012: 216)

〔韓禮徳は、文体を一種の表現としてだけ見なし、概念的意味（或いは認知的意味とも称する）と対立させ、文体を意味のない属性として見なすことに同意しない。〕

(28)の“把文体视为没有意义的特征”は“视文体为没有意义的特征”と表現することができるが、前文で“把”構文を用いているため、その影響で“把”構文を用いていると考えられる。

しかしながら、この問題は単純ではなく、同じ語体において、どちらの形式が選択されるかは、その他の要素もあると推測される。

## 5. 日本における今後の研究課題

以上、中国における現代中国語書面語の研究動向を概観した。現代中国語書面語は、朱德熙 1985, 1987 や胡明扬 1993 などにより、口語文法と書面語文法を分けて研究を行う重要性が論じられ、その後冯胜利 2003 により、書面語には独立した文法体系があることが指摘された。その後現在に至るまで、書面語における韻律や文言成分などの研究を通じて、書面語文法の独立性が実証されてきている。

今後、日本においては、そのような書面語の文法研究を進めるだけでなく、その研究成果を教学にどのように取り入れるかについての研究が必要であると考えられる。現在の日本の大学における書面語教育は、文章読解であれ作文であれ、基礎の授業で学習した口語文法の知識に基づいて教授されていると推測される。書面語文法については、書面語と口語の表現の相違には言及されるものの、特に韻律まで体系的に授業に導入することはまれであろう。限られた授業時間の中で、より正確な文章読解や作文のために、書面語の文法体系をどのように取り入れるかは今後多くの研究が必要な課題であると考えられる。

## 〈注〉

- 1) 原文は“书面语和口语共享一种语法、书面语不过是口语变体的观念”（冯胜利 2018：14）である。
- 2) 例えば、石崎 2019, 2020 は、それぞれ中国語の医薬品の説明書と法律に見られる書面語の文法的特徴を分析した研究で、書面語文法を独立した体系とみなした研究である。この種の研究は日本ではまだわずかである。
- 3) 本稿における「書面語」とは、冯胜利 2006：1-23, 2010：401 などでも説明されている“书面语正式语体”（書面語正式語体）を指す。「書面語正式語体」とは、この約100年間に独立発展して生まれた新しい語体で、白話とも独立した“自生系統”と文言から取り入れた“典雅語体”から成る。使用範囲は広く、政府公文書、新聞雑誌、学術著作、会社の契約書、ニュース、テレビ広告などである。なお、「語体」については、以下注8を参照。
- 4) 原文は“最近二三十年来，中国受西洋文化的影响太深了，于是语法也发生了不少的变化。这种受西洋语法影响而产生的中国新语法，我们叫它做欧化的语法。”（王力 1943：334）である。
- 5) 原文は“目前专门研究口语的语法著作不多见，专门研究书面语的书更是绝无仅有。为了使现代汉语语法深入下去，恐怕应该对口语语法和书面语语法分别进行细致研究”（朱德熙 1987：328）である。
- 6) 原文は“口语和书面语尽管有些差异，不过在语法方面的差异是细微的，至少不会影响一般的结论”（胡明扬 1993：2）である。
- 7) 原文は“口语和书面语的区别是一个必要的步骤但还比较粗线条”（陶红印 1999：18）である。
- 8) 「語体」は中国語学において広く用いられる用語ではあるが、定義が定まっていない概念であり、本稿では「語体」と表記する。なお、冯胜利 2018：前言 I では、「語体文法が定義する語体とは、“文体”（文体）や“风格”（スタイル）ではなく、“修辞”（修辞）や単純な“语域”（レジスター）でもない」。「人類の直接的コミュニケーションの中で最も原始的で、本質的な属性を実現する（または双方の間の関係や距離を確定する）言語手段とメカニズムである」と述べている。
- 9) 《汉语韵律语法丛书》は北京語言大学出版社から出版されている叢書で、《汉语句法词》（庄会彬, 2015）、《汉语的四字格》（朱赛萍, 2015）、《汉语的韵律形态》（裴雨来, 2016）など現在17の著作が出

版されている。詳細は次のウェブサイトを参照。http://www.blcup.com/SeriesBook/index/1603

- 10) 原文は“減弱或去掉具体事物、事件或动作中时间和空间的语法标记”(冯胜利 2010: 407)である。
- 11) (8)の前の語彙の文法的性質については、“面临”, “无法”, “集中”, “导致”は動詞であるが, “严厉”は形容詞, “极为”は副詞である。後の語彙については, “倒闭”, “工作”, “惩罚”は動詞であるが, “力量”, “疾病”は名詞, “不满”は形容詞である。
- 12) 原文は“以大量的事实说明汉语书面语中的文言成分不同于文言文的重要事实, 旗帜鲜明地提出并证实了书面语作为独立体系存在的真实性和现实性”(冯胜利 2018: 11)である。
- 13) 原文は“至于是什么因素决定了融合, 将会是未来值得研究的问题”(冯胜利 2018: 12)である。
- 14) 明確に述べられているわけではないが, 孙德金 2012: 201-217の“VA为B”の考察に基づくと, 当該構造は「中融合度」に属すると推測される。
- 15) 原文は“动作行为的发出者施加某一动作行为给A, 使A成为B”(孙德金 2012: 203)である。
- 16) “VA为B”と“把”(“将”)構文はすべての文で置き換えられるわけではない。例えば, 孙德金 2012: 203によると, (14)は“VA为B”に置き換えられないということである。

#### (参考文献)

- 石崎博志 2019. 「医薬品における文語表現 レアリアにおける文語表現の一環として(1)」, 『佛教大学文学部論集』103: 27-39頁。
2020. 「法律における文語表現 レアリアにおける文語表現の一環として(2)」, 『中国言語文化研究』19: 1-24頁。
- 三瀧正道 2015. 「韻律から見た現代中国語白話書面語(論説体)の特徴」初探, 『麗澤大学紀要』98: 73-78頁。
- 関光世 2016. 「中国語における欧化研究の変遷と今後の可能性」, 『京都産業大学論集(人文科学系列)』49: 201-215頁。
- 崔山佳 2013. 《汉语欧化语法现象专题研究》, 成都: 四川出版集团巴蜀书社。
- 冯胜利 2003. 《书面语语法及教学的相对独立性》, 《语言教学与研究》第2期: 53-63頁。
2006. 《汉语书面用语初编》, 北京: 北京语言大学出版社。
2010. 《论语体的机制及其语法属性》, 《中国语文》第5期: 400-412頁。
2018. 《汉语语体语法概论》, 北京: 北京语言大学出版社。
- 贺阳 2008. 《现代汉语欧化语法现象研究》, 北京: 商务印书馆。
- 胡明扬 1993. 《语体和语法》, 《汉语学习》第2期: 1-4頁。
- 黄梅 2012. 《现代汉语嵌偶单音词的韵律句法研究》, 北京: 北京语言大学出版社。
- 柯航 2012. 《现代汉语单双音节搭配研究》, 北京: 商务印书馆。
- 孙德金 2012. 《现代书面汉语中的文言语法成分研究》, 北京: 商务印书馆。
- 陶红印 1999. 《试论语体分类的语法学意义》, 《当代语言学》第3期: 15-24頁。
- 王力 1943. 《中国现代语法》, 北京: 商务印书馆(本稿では1985年版を参照)。
1944. 《中国语法理论》, 北京: 中华书局(本稿では1955年版を参照)。
1958. 《汉语史稿》(下册), 北京: 科学出版社。
- 王永娜 2016. 《汉语书面正式语体语法的泛时空化特征研究》, 北京: 中国社会科学出版社。
- 周韧 2011. 《现代汉语韵律与语法的互动关系研究》, 北京: 商务印书馆。
- 朱德熙 1985. 《现代书面汉语里的虚化动词和名动词》, 《北京大学学报(哲学社会科学版)》第5期: 1-6頁。
1987. 《现代汉语语法研究的对象是什么?》, 《中国语文》第5期: 321-329頁。

**Abstract**

## Research Trends in Modern Chinese Written Grammar in China

In the study of Chinese grammar, the dominant idea has conventionally been that “written language and spoken language share the same grammar and written language is only a variant of spoken language” (冯胜利 2018: 13-14). However, in China, 冯胜利 2003 pointed out that modern written Chinese incorporates an independent grammatical system that is different from classical and spoken Chinese. Since then, numerous studies have demonstrated the independence of written Chinese grammar.

Here, we provide an overview of the research trends in Modern Chinese written grammar and present the challenges written Chinese research will face in Japan.